

(1) 学校経営方針に基づき、特別支援教育を推進する

「特別支援教育」を推進するポイント

あらゆる機会を捉えて特別支援教育の理解の推進を図る

- ・ 学校経営方針をホームページに掲載、グランドデザインの策定
- ・ 児童生徒向けに、儀式的行事での挨拶、全校朝会での講話等
- ・ 保護者向けに、学校だよりやPTA総会、研修会等の挨拶等
- ・ 地域向けに、学校運営協議会での熟議や教育状況の説明等 など

ア 方向性

学校経営方針に位置付けた特別支援教育に関する内容について、学校が有する既存の手段を活用し、効果的に情報発信する。

近年、道内の多くの小・中学校等において、学校経営方針やグランドデザインに「特別支援教育の充実」が位置付けられています。

その一方で、いわゆる「作ったまま」の状態で、その内容が説明されることなく年度末を迎えてしまうこともあります。作成した学校経営方針に基づき、特別支援教育の充実を図るためには、校長が特別支援教育に関する**情報を発信することができる機会や媒体を有効に活用**し、教職員や児童生徒、保護者、地域に向けて、継続的に発信することが考えられます。

イ 解決の糸口

校長が情報発信することができる既存の機会や方法を活用し、年間を通して情報発信を行う。

(1) 情報発信できる機会の確認

校長が教職員、児童生徒、保護者、地域に向けて情報発信できる方法・手段にどのようなものがあるかを確認します。

例) 学校ホームページや学校だより、職員会議、校内研修会、PTA研修会、全校朝会での講話 など

(2) 年間スケジュールの検討と見直し

年間行事予定を見通しながら情報発信することができるよう、情報発信の時期、対象、内容を確認します。年間スケジュールを確認する際は、例えば「6月の職員会議で先生方の取組を紹介しよう」など、情報発信の時期、対象、内容を明らかにするほか、情報発信した結果を振り返り、経営方針の記載内容や校内支援体制の見直しにつなげます。

ウ 学校経営上のヒント

- 校長自身の研修の必要性
 - ・校長自身が特別支援教育の意義を正確に捉え、リーダーシップを発揮することが大切です。そのためには、校長自らが研修に参加したり、校長会等での情報交換を活発に行ったりすることによって、常に認識を新たにしていくことが考えられます。また、可能であれば、特別支援学校を見学する機会を意図的に設けることも考えられます。
- 学校経営方針に掲げた内容の見直し
 - ・発信した内容について、PTAや学校運営協議会の構成員など、様々な場面で関係者に感想などを聞くことで新たな取組につなげます。
- 年間を見通した取組の推進
 - ・どの時期のどの場面で「特別支援教育」について触れるか、あらかじめ計画をしておくことで、スムーズに準備することができます。
 - ・年間を通じて誰に理解啓発したかを明確にしておくことで、意図を持ってバランスよく情報発信するよう確認することができます。

【学校の年間行事予定を見通した、情報発信する機会の設定の例】

| 月 | 行事等 | 取扱い | 対象 | | | |
|---|--------------|---------------------------------------|-----|-----|------|------|
| | | | 教職員 | 保護者 | 児童生徒 | 地域住民 |
| 4 | 入学式・始業式 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | | | | |
| | PTA総会 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | | ○ | | |
| | ホームページ/学校だより | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | | ○ | | ○ |
| | 職員会議 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | | | | |
| 5 | 全校朝会 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | | | | |
| | 授業参観 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | | | | |
| | 交流及び共同学習 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | ○ | | ○ | |
| 6 | 全校朝会 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | ○ | | ○ | |
| | 職員会議 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | ○ | | | |

コラム

グランドデザインを学校の広告に

ある中学校の校長は、自校のグランドデザインをいつもかばんに入れて持ち歩いており、生徒のインターンシップ受入先の事業所を訪ねたときなどには、グランドデザインを提示し、学校の経営方針や生徒に身に付けさせたい資質・能力を伝えています。

ちょっとした機会でありながら、“すでにあるもの”を活用した効率的、効果的な広報活動の工夫と積み重ねが、地域との連携・協働や目指すべき学校教育の実現につながっています。